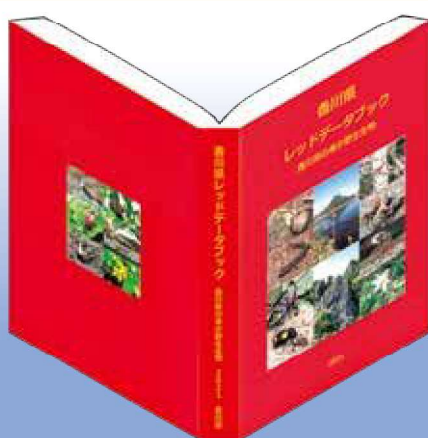
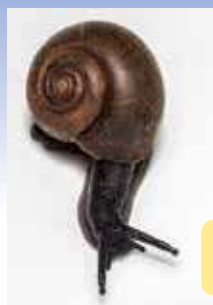
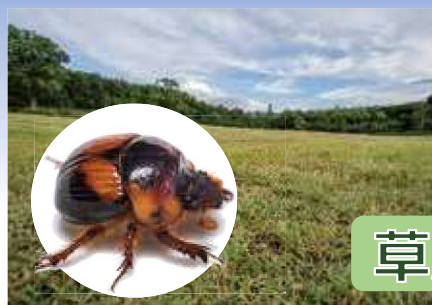


香川県 レッドデータブック 2021



香川県の希少野生生物におきている出来事を、環境ごとに図解。外来種問題も掲載しています。

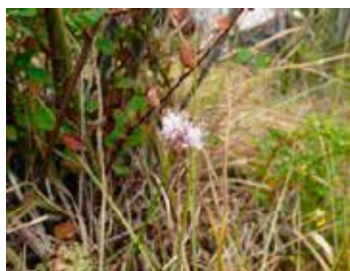


～まるわかりナビ～

香川県レッドデータブックは 香川の自然の健康診断書

生き物から読み解く、自然界の SOS

未来をつくる、未来に残す生き物の記録



『香川県レッドデータブック2021』は、香川県に生育・生息する“絶滅のおそれのある野生の生き物”の情報を取りまとめた本です。この本では、1032種の希少な生き物の生育・生息状況、また絶滅の危険性や理由などが掲載されています。

どうして、これほど多くの生き物が絶滅しそうになっているのか、私たちは何を失いつつあるのか、それが私たちにどんな影響があるのか…、という問題を考えるうえで、この本は基礎資料となります。

そして、自然との共存を目指して元の調和を取り戻そうとする際に、元来、私たちはどういう環境でどのような生き物と暮らしてきたのかという記録になるものを、現在の私たちだけでなく、未来の人々にも残す役割がこの本にあります。是非、この本によって、香川県の自然に興味をもっていただき、香川県の自然を守るきっかけとなることを心から願います。

左上：ヤハタマイマイ
(絶滅危惧Ⅰ類)

右上：カンカケイニラ
(絶滅危惧Ⅰ類)

左下：ニョタイササキリモドキ
(準絶滅危惧)

右下：ショウドシマレンギョウ
(絶滅危惧Ⅱ類)

種は進化のかけがえのない産物です。4種とも、香川県で独自に進化した、世界で香川県にしかない動植物です。

今、世界の自然界で起きていること

公表内容	公表年	公表した組織
100万種の野生生物が絶滅の危機にさらされている。	2019年	生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)
1970年以降の過去50年ほどの期間に、野生生物の個体数が平均68%減少した。	2020年	世界自然保護基金(WWF)

香川県の自然界の現状

公表内容	公表年	公表した組織
798種の野生生物が絶滅の危機にさらされている。	2004年	香川県環境森林部 環境・水政策課
1032種の野生生物が絶滅の危機にさらされている。	2021年	香川県環境森林部 みどり保全課

表紙写真【浜辺】上：ハマニガナ(準絶滅危惧)

下：ハクセンシオマネキ(準絶滅危惧)

【水辺】上：イシヅチサンショウウオ(絶滅危惧Ⅱ類)

下：アカザ(絶滅危惧Ⅰ類)

【草原】左：ムネアカセンチコガネ(情報不足)

右：ヒメユリ(絶滅危惧Ⅰ類)

【森林】左：トサビロウドマイマイ(絶滅危惧Ⅱ類)

右：オオコノハズク(絶滅危惧Ⅱ類)

香川県の**浜辺**で起きていること

干潟・海浜
塩湿地・塩田

植物(海岸植物、汽水性の水草など)

現在、観音寺市の有明浜では21種の海岸植物が生育しており、西日本屈指の海浜植物の大群落が形成されています。

海岸には様々な環境があり、それぞれに異なる海岸植物が生育しています。具体的には、海辺の砂浜に生育する海浜植物、沿岸の崖地に生育する海崖植物、塩分を含む湿地に生育する塩湿地植物などがあります。日本の海岸植物は280種で、その内の83種(約30%)が絶滅の危機にさらされています。危機の要因としては、人間の影響(海岸の埋め立てや護岸工事、後背地の開発)や自然災害(海岸浸食による海岸の奥行の縮小)があげられます。香川県で「海辺の改変」の影響を受けている植物は、43種(香川県のレッド植物種の9.3%)で、その内の2種(ツツイトモ、クマノギク)は県内で絶滅しました。



左上：ハマビシ (絶滅危惧Ⅰ類 / 海浜植物)
左下：イワタイゲキ (絶滅危惧Ⅱ類 / 海崖植物)
右：ハマサジ (準絶滅危惧 / 塩湿地植物)

動物(鳥類、爬虫類、魚類、昆虫類、甲殻類、貝類)

動物も植物と同様に、「海辺の改変」の影響を受けていますが、動物はさらに「海水域の変化」も受けています。具体的には、海上交通、赤潮、餌生物の減少による影響です。これらの影響を受けている動物は、129種(香川県のレッド動物種の22.6%)です。その内訳は、鳥類(23種)、爬虫類(1種)、魚類(13種)、昆虫類(21種)、甲殻類(2種)、貝類(6種)です。



【上段】左：トビハゼ (絶滅危惧Ⅱ類) 右：オオソリハシシギ (絶滅危惧Ⅱ類)
【下段】左：ワカウラツボ (絶滅危惧Ⅰ類) 中：シオマネキ (絶滅危惧Ⅰ類) 右：オオウスバカゲロウ (絶滅危惧Ⅱ類)

香川県の水辺で起きていること

河川・ため池
湿地・水田

植物(水生植物、湿地性植物など)

水辺には様々な環境があり、それぞれに異なる植物が生育しています。特に、ため池には色々な水草が生育しています。水草の種は、山地部、丘陵部、平野部で大きく変わり、水深によっても生育する種が変化します。浅い場所には抽水植物、中程度(光が底に届く範囲)に沈水植物、深い場所には浮葉植物、その他浮遊植物が生育しています。さらには、ため池の水際に生育する種などもあり、それら全てに絶滅のおそれのある種が含まれています。「ため池・河川・湿地の改変、水質・農業汚染」の影響を受ける種は180種、香川県のレッド植物種の39%で、そのうち、生息環境が限定的な種として、ため池の82種、湿地・湿地の39種、河川敷の6種があげられます。



左上：ミズオオバコ (絶滅危惧Ⅱ類/抽水植物)
 右上：ヤナギスブタ (絶滅危惧Ⅰ類/沈水植物)
 左下：オニバス (絶滅危惧Ⅰ類/浮葉植物)
 右下：サギソウ (絶滅危惧Ⅰ類/湿性植物)

動物(鳥類、爬虫類、魚類、昆虫類、甲殻類、貝類)

動物も植物と同様に、「ため池・河川・湿地の改変、水質汚濁・農業の汚染」の影響を受けていますが、植物が「ため池の改変」の影響を最も強く受けているのに対し、動物では「河川の改変」が最大の要因となっています。具体的には河川改変(177種)、水質汚染(133種)、ため池改変(100種)、湿地改変(57種)です。重複を除くと、これら水辺の改変の影響を受ける動物は299種(香川県のレッド動物種の52.5%)です。



【上段】左：ヒクイナ(準絶滅危惧) 右：オオキトンボ(絶滅危惧Ⅱ類)
 【下段】左：セトウチサンショウウオ(絶滅危惧Ⅱ類) 中：ヒメマルマメタニシ(準絶滅危惧) 右：ニッポンバラタナゴ(絶滅危惧Ⅰ類)

香川県の草原で起きていること

半自然草原、河川敷、よく草刈りされた田畑の斜面・池の土手

草原が、絶滅危惧なのです

草原は水辺や森林よりも後に誕生した環境で、日本列島では水河期（鮮新世／約500～258万年前）に発達したと考えられています。水河期は冷たく乾燥した気候のため森林が育ちにくく、かわりに草原が広がりました。その後、最終氷期になってからは、温暖で湿潤な気候となり、草原性の動植物は減少していったと推定されています。

現在の日本の草原の多くは、人工的な草原（半自然草原）です。具体的には、水田農耕がはじまり、作物の肥料や家畜の餌のために、山野で草木の刈取りをした場所が、半自然草原として人工的に続いてきたと考えられています。このような草原は、明治大正期には10%以上あったと推定されており、農業の衰退や、化学肥料、植林などの影響で、1%余りまでに減少しました。

香川県では1960年頃まで、海岸に近い低山は、樹木のまばらな草原状態であったといわれています。それは、主に人々が炊飯や風呂用の燃料（薪）を得るために木を切った結果です。しかし、人々が電気・ガスを使い始め、伐採の必要がなくなつてからは、樹木が生い茂り始め、近年はほとんどが森林に戻っています。



上左：ユウスゲ(準絶滅危惧) 上右：キキョウ(準絶滅危惧)
下：オミナエシ(準絶滅危惧)

動物(鳥類、昆虫類)

香川県には、小規模な草地在海岸や川原、よく草刈りされた田畑の斜面やため池の土手、岩場などの荒地などにみられ、近年の環境変化に伴い、そこにすんでいる昆虫の種類にも変化が生じています。これらのうち一部の昆虫は、人工的な草原(半自然草原)に逃れて生き残つてきましたが、人工的な草原も少なくなり、草原性の昆虫の一部は絶滅しています。草原の植物を幼虫の餌とするチョウなど、草食性昆虫を中心とした21種に絶滅のおそれがあります。

■鳥類
草の種子を食べる鳥、草につく虫を食べる鳥、草原にすむ鳥やネズミなどをつかまえて食べる鳥などが生息しています。その内、4種に絶滅のおそれがあります。

■昆虫類



【上段】 コミズク(絶滅危惧Ⅰ類)
【下段】 左：シルビアシジミ(絶滅危惧Ⅰ類) 中：ホオアカ(準絶滅危惧) 右：ウスバカマキリ(情報不足)

香川の約半分は森林です

約1万年前(縄文時代)には、世界の森林面積は62億haあったと考えられています。その後、文明の発達とともに森林は伐採され、現在は、約40億ha(陸地面積の約31%)に減少しました。国別にみると、日本の森林率は約67%で、先進国の中では世界で3番目に森林率が高く、世界でも有数の森林国と言われています。現在、香川県の面積の約半分(47%)が森林で、大多数の生き物がここで暮らしています。「森林開発」や「人工造林」の影響を受ける植物は267種(香川県のレッド植物種の57.8%)で、その内の87種が県南部の山地に集中しています。



左上：ホンシャクナゲ(準絶滅危惧) 右：シコクカッソソウ(絶滅危惧Ⅰ類)
左下：ヤマシャクヤク(絶滅危惧Ⅱ類)

動物(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類)

■哺乳類(2種)

森林には、ほとんどの小・中・大型の哺乳類がいます。種類によって、土壌中の昆虫やミミズ、木の芽・葉・実や樹皮、下草や地下茎・貯蔵根、小型動物、動物の両方などを食べます。

■鳥類(31種)

木の実、木の花の蜜、昆虫を食べる種が多く、森林の鳥やネズミなどをつかまえて食べる猛禽類もいます。

■爬虫類(2種)・両生類(3種)

全て、他の動物を襲って食べます。

■昆虫類(83種)

香川県の大部分をしめる里山の雑木林では、近年は人手不足で里山が荒れ、以前はふつうに見られた昆虫が少なくなっています。シイ・カシやブナなどの自然林には、香川県に固有の昆虫が生息しています。

■陸産貝類(44種)

ほとんどの種が植物や菌類(キノコや落ち葉に付着した菌類)を食べ、ごく一部が他の陸貝を襲って食べます。

()の中の数字は、「森林開発・人工造林」の影響を受ける種。



上：テングコウモリ(情報不足)
下：アズマモグラ(準絶滅危惧)



左から オオタカ(準絶滅危惧) タカチホヘビ(情報不足) オオクワガタ(準絶滅危惧) アワマイマイ(絶滅危惧Ⅱ類)

外来種問題

香川県の各地で起きていること

被害者は、ほとんどが水辺の生き物

今、香川県では63種の希少な野生動物植物が、外来種の影響を受けて、減少を続けています。主に被害を受けているのは、植物（水草を中心とした19種）、魚類（河川・ため池に生息する淡水魚12種）、昆虫類（水生昆虫を中心とした15種）、貝類（干潟や水田に生息する8種）などです（図1）。

つまり、最も多くの被害が出ている環境が水辺なのです（図2）。

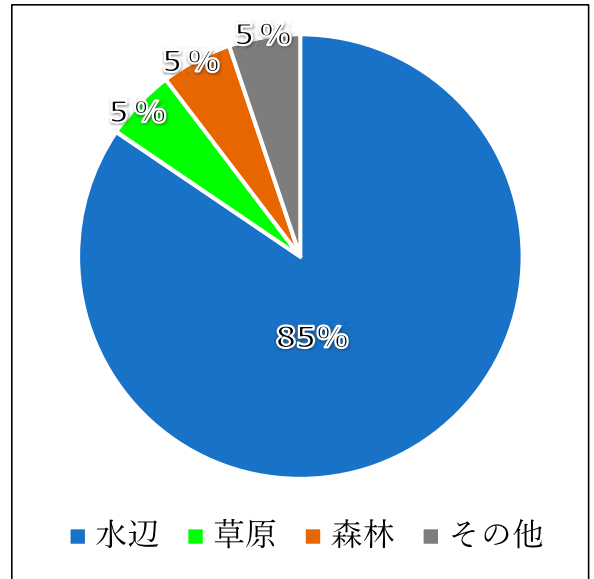


図2 香川県で外来種の影響を受けている希少種の生育・生息環境の割合

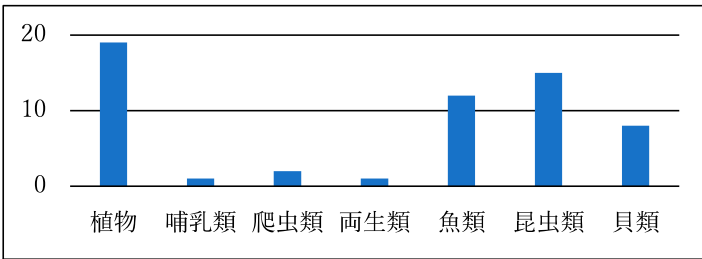


図1 香川県で外来種の影響を受けている希少種のグループと種数

外来種は悪くない。悪いのは人間。それでも…

外来種は、人間が連れて来た生き物です。外来種問題を引き起こしているのは私たち人間であり、生き物に罪はありません。しかし、外来種は、長い時間をかけて在来種が作り上げてきた様々な関係を急速に破壊することがあります。その結果、在来生物だけでなく私たちが生きていく上で必要な自然のバランスをも破壊してしまうこともあるため、やむなく防除しなければなりません。

外来種による香川県での主な被害内容は、被食（外来種に食べられる）、競合（生き残りをかけて外来種と争う）、交雑（外来種との間に子供ができて、雑種化する）です（図3）。



オオクチバス（特定外来生物）

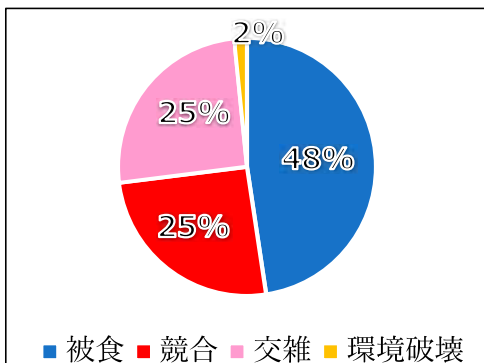


図3 香川県で外来種の影響を受けている希少種の被害内容の割合



左：ウシガエル（特定外来生物）



右：ミシシippアカミミガメ（緊急対策外来種）

自然の恵み

(植物が作る酸素、きれいな水、豊かな土壌、美しい景観) を
いつまでも 与えてもらえる 世界を目指して…。



香川県レッドデータブック2021 ～ まるわかりナビ～

- 2022年3月発行
- 発行 香川県環境森林部みどり保全課
- 企画・編集 特定非営利活動法人 みんなでつくる自然史博物館・香川
- 写真提供者 (五十音順)
秋山 敬典／宇都宮 靖博／大高 裕幸／金森 正博／川口 敏／川崎 克美／川南 勉／
佐藤 明／塩田 浩之／篠原 望／末廣 喜代一／瀬尾 友樹／高木 真人／谷上 時彦／
林 鈴以／福丸 政一／三浦 勝美／安森 盟文／谷地森 秀二／和田 洋介